

要 約

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : 二硫化ジフェニルのオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する
繁殖阻害試験

試 験 番 号 : A030425-3

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)
- 2) 暴露方式: 半止水式(毎日試験液の全量を交換)
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供試生物: オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間: 21日間
- 5) 試験濃度: 対照区, 助剤対照区,
(設定値) 0.0100, 0.0210, 0.0450, 0.0950, 0.200 mg/L
公比: 2.1
ただし0.200 mg/Lは試験液調製可能最高濃度
助剤濃度一定: 100 μ L/L (ジメチルホルムアミド使用)
- 6) 試験液量: 80 mL/容器
- 7) 連 数: 10容器/試験区
- 8) 供試生物数: 10頭/試験区 (1頭/容器)
- 9) 試験温度: 20 \pm 1 $^{\circ}$ C
- 10) 照 明: 室内光, 16時間明 (800 lux以下) / 8時間暗
- 11) 分 析 法: 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)

試験結果：

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、調製時において 86~115%、換水前において 6~20%であった。減少の主な原因は、ミジンコおよび餌 (*Chlorella vulgaris*) への吸着等が考えられた。

2) 21日間暴露後の結果

	(mg/L)	95%信頼区間 (mg/L)
親ミジンコの半数致死濃度 (LC50)	0.0290	0.0191~0.0440
50%繁殖阻害濃度 (EC50)	0.0191 < EC50 < 0.0440 (算出不可)	
最大無作用濃度 (NOEC)	0.00789	—
最小作用濃度 (LOEC)	0.0191	—